

## 今年の夏は「聖滝」が脚光を浴びています！！

みなさん、『聖滝』をご存じですか？ 国道180号を菅沢神社付近で県道48号へ入り、しばらくいくと大きな案内看板が目印です。

秋原川をさかのぼり、滝へと続く遊歩道は、清らかな溪流に沿って整備されており美しいの一言です。傾斜ほとんどない遊歩道を800mほど進むと大小4段からなる聖滝が姿を現します。

木花咲耶姫（このはなさくやひめ）と邇邇芸命（ににぎのみこと）が結婚の儀をあげたという伝説がある霊験あらたかな滝です。こんないわれのある滝が観光のスポットとなっています。また、暑い夏の避暑地として脚光を浴びています。

その原因の一つに、隣町法勝寺の写真家「廣池昌弘さん」が聖滝で撮影された「ヒメボタル」の組み写真が世界第2位を獲得されたことが大きな要因です。鳥取県西部地域を中心に、岡山県や広島県からも訪れる人々が多いようです。

「ヒメボタル」は、川で育つホタルではなく、山で育つホタルです。一般に知られているゲンジボタルは、2秒に1回光を放ちますが、ヒメボタルは、1秒に1回光を放ちます。また、メスは羽が退化しており、飛ぶことができません。町内の杉林を中心に生息しているようです。とても貴重なホタルです。

そんな珍しいホタルをこの夏聖滝で、世界的に有名な写真家が講師となって、撮影会が開催されました。



また、世界的な写真家でもあり、日南町をフィールドとして撮影されている「福田幸広さん」と「廣池昌弘さん」のトークショーも日南町文化センターで開催され、県外の方々が多く聞きに来られていたことも聖滝が有名になった原因の一つでもあるようです。

今日も「古民家かつみや」には、多くの泊まり客が、聖滝での溪流遊びに来られているようです。



編集・発行 大宮まちづくり協議会

《お問合せ》

大宮地域振興センター  
〒689-5531  
鳥取県日野郡日南町印賀 1510 おおみや  
TEL・FAX (0859)87-0911  
Mail: skn0400@town.nichinan.tottori.jp  
satoyamaoomiya@sea.chukai.ne.jp  
blog: <http://blog.zige.jp/satoyamaoomiya/>  
“じげプロ”よりお入りください



編集後記

◆久しぶりの発行となり、申し訳ありません。今後は、定期的に2ヶ月に1回の発行を行います。どうぞよろしくお願いいたします。◆大宮地域も猛暑続きでしたが、台風9号が通過してからは、少し涼しくなりました。全国各地で被害が出ていますが、大宮地域は大きな被害もなく、安堵しています。みなさま方の地域はいかがだったでしょう。◆今号は、大宮地域に住む珍しい動物を取り上げました。こんな珍しい動物も住んでいる大宮に誇りを感じています。 (青)



これは、一条山普音寺の境内です。印賀に住んでおられる女性有志が発案し、「お茶会」が行われました。桜がちょうど満開の時期で、晴天でもあり、各テーブルではお茶を飲みながら世間話に花が咲きました。次回は、秋の境内の銀杏を見ながら行えばいいかなとの話もでています。

# 大宮に住む動物たち

昨年、大宮地域でとても珍しい生物が発見されました。一つは、国の天然記念物であるオオサンショウウオです。(何だ！ハンザケか？とお思いでしょうが・・・) 菅沢地区の中原川(下中津合)で発見されました。



親のオオサンショウウオばかりでなく、子どものオオサンショウウオがたくさん発見されました。これは、中原川の河床掘削の工事にあたり、オオサンショウウオの取り上げ調査を実施した結果です。



約500mを掘削する計画でしたが、土砂堆積した所から産卵巣穴が発見され、オオサンショウウオの幼体が見つかったのです。それも、2か所からのようです。



本年、多里地域振興センターにおいて「はんざけよもやま話 in 多里」が開催されました。

その際、「鳥取県発注業務事例：特に産卵巣穴の保全と施工業者との協力について」と題して、(株)荒谷建設コンサルタントの山崎寛子さんが発表されました。

山崎さんのお話によると、オオサンショウウオの取り上げ調査により、工事は一旦中止し、詳細にわたって調査されました。

大人のオオサンショウウオとともに、産卵巣穴が発見されました。それも堆積した土砂の中から2か所も発見されたようです。その巣穴から赤ちゃんのオオサンショウウオが見つかったのです。そこで、オオサンショウウオを保護し、安全な場所に避難させ、河床掘削の工事は実施されました。産卵巣穴の保護のため、地元住民や施工業者である稲田組さんの全面協力により、掘削工事の規模を小さくして工事が行われました。

こうした天然記念物の保護のために人と生物が共生していく姿を拝聴し、豊かな大宮の自然が保たれていると感じました。

もう一つは、「カヤネズミ」です。カヤネズミは、近年生息地の減少によって全国的に絶滅が危惧されています。情報によると、県道菅沢伯太線の印賀地内ヒイガタワの群生しているカヤの中にいたそうです。



カヤネズミは、体長約6センチ(親指大)、体重7~8グラム(500円玉の重さぐらい)の日本で一番小さなネズミです。主に草むらに住み、イネ科の植物で巣を作ります。イネ科の植物の「茅(かや)」からその名前が付けられました。全国的な環境の変化によって減少傾向にあります。山陰両県ではまだまだ見る機会が多いためか「絶滅危惧・準絶滅危惧」ではありません。

しかし、田んぼのイネにも巣を作ることから、イネを食害する害獣と見なされて捕殺されることもあったようですが、滋賀大学の調査により、エノコログサの実やイナゴやバッタも食べるので、稲を守る益獣ということが判明しました。

カヤネズミの住まいはとても分かりやすく、地上から1メートルくらいの高さで直径8~10センチほどの草で出来たボールを作ります。これがカヤネズミの存在を証明するサインです。



世界でも有名な動物写真家である福田幸広さんが、大宮で調査されたようです。「まだ、多くの場所を見たわけではありませんが、優良生息地だと思われます。調査開始時期が繁殖シーズン終了時期だったため、映像は少しです。」と情報をいただきました。

大宮地域では、印賀だけでなく折渡にもいそうだと言うことでした。カヤの群生している場所は、以前は田圃であったところだと思われます。長らく耕作放棄地だったところが、カヤの群落になっているようです。そんな場所にカヤネズミがいるようです。今は、上空からの写真で広いカヤの群落を発見して実際に調査にかかるそうです。

カヤネズミは良好な里山の指標の一つです。小さなカヤネズミの巣を見かけたら、自然環境のよい大宮地域だと感じてください。

大宮の豊かな自然が発見されました。私たちが気付かない大宮のよさをまた知ることができました。まだまだ私たちが知らない里山大宮のよさはたくさんあるのではないのでしょうか。

こうしたよさを知ることによって、大宮を誇りに思い、このよさを発信したり、地域おこしに役立てたりして、持続可能な大宮にしていきたいと思います。

なお、本年度の総務学習部で自然散策しながら、自然環境のよさを知る講座を専門家をお招きして、学習したいと計画しています。その際には、ご参加ください。

